

目配り・気配り・心配り⑧

今回は金山中学校の紹介です。

一、はじめに

新入生五十七名を迎え、全校生徒百八十一名の金山中学校は、連携型中高一貫教育による二十一名の手厚い教職員に、金山高校の英語教員やALTの応援を得て、国際理解教育と地域学習(Global&Local)に力を入れていきます。

二、今年度の重点

「新適時適育」によれば中学生の発達課題は「自発性の獲得」とされ、今年度は「自立と貢献」を重点にしています。生活習慣の確立から読書を土台にした学力向上、相談援助の生徒指導に至る「自立」と、生徒が主役の生徒会・JRC活動、体験重視のキャリア教育による「貢献」を実現するため、「生活がしっかりすれば学力が身につく」、将来も広がる「生活リズムを整え、世の



インターンシップの様子

中のしきたりと決まりを身につけさせる」を家庭と共有し、変化する時代を生き抜く力を育てようとしています。

三、特色ある教育活動

その中核となる中高合同のインターンシップは、三年生が七月六日からの三日間、金山町インターンシップ協力会を中心に四十五の事業所の協力で行われました。また、事前にシェーネ

スハイム金山の総支配人の有路稔さんにおいていただきマナー講座も実施しました。

体験感想 三年 小野 樹

事業所 ビューティ小沼

「今回一番学んだことは「笑顔で挨拶する大切さです」。美容師は接客業なのでお客様と接するときは笑顔で相手の目を見て話すことを意識しました。三日間お世話になって学んだことは自分が将来仕事をするうえでとても大切なことばかりでした。美容師になりたいという夢につながる素晴らしい体験をさせていただきました。」

各事業所からは「礼儀正しく大変立派で、積極的に取り組んでいた」「過重な労働にも根をあげず頑張ってくれた」「高校生と二人で作業を仲良くできた」等の意見をいただきました。ただ、「将来のビジョンの意識が見られないように感じた」「照れがあり、大人とコミュニケーションがうまくとれなかった」等のご指摘もあり今後に生かしていきたいと思えます。



実習中の小野さん

実習を終えた生徒たちは日常の学習では味わえない喜びや緊張感、成就感を味わい、職業観を育成するための大変貴重な機会となりました。

四、おわりに

金山町インターンシップ協力会の支援を大変ありがたく感じています。これからも継続してご協力いただけるようお願いいたします。

今後も地域と密接な関わりを持った教育活動をさらにすすめてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

文責・金山中学校校長 梅津広全